



ドラゴンズが弱い理由

人生の3分の1くらいを関西で過ごしてきたので、阪神タイガースファンの熱気の凄まじさを痛いほどに感じてきました。

タイガースが買ったか負けたかで、次の日の1日の雰囲気ガラリと違うこともままあります。

まず、朝のニュース番組。

タイガースが負けた次の日は、ニュースキャスターが不機嫌だったり悲しそうにしていたりするので。

ウソでしょと思うかもしれませんが、ホントです。

もちろんそれは演出の一環でもあるのですが、それがすんなりと受け入れられている現実があるのです。

だからこそ、今年のタイガース優勝の盛り上がりがいかに凄まじかったかが容易に想像がつかます。

そこから、私は北海道に移りました。

北海道と言えば、日本ハムファイターズです。

こちら、ファンの熱量はものすごく高いものがありました。

私の小さい頃（まだファイターズの本拠地が北海道ではなかった頃）には考えられなかった姿です。

私が関西で暮らしている間に本拠地が変わり、リーグ優勝や日本一を経験して、すっかり地域に根差した人気球団に変わっていました。

そして、私は愛知にやってきました。

最初に「新天地に来たなあ」と実感したのは、朝のニュースを見た時です。タイガースでもファイターズでもない、ドラゴンズの特集。

それを見た時に、「ああ新しい場所に来たんだな」ということを改めて感じたのでした。

そのドラゴンズですが、ここ数年はかなり不調だと聞きました。

去年は最下位で、今年もこのままいくと最下位。

2年連続最下位になったとしたら、球団史上初なんだとか。

なぜ、これを書こうと思ったかということ、先日あるラジオ放送を聴いているときにこのタイトルで放送がなされていたからです。

その弱さの理由を、パーソナリティの方は次のように言っていました。

心理的安全性がないから

勝てていない理由は様々にあるわけですが、その中の最たる理由として「点が取れない」があるのだそうです。

点が取れないとはつまり、「ヒットが出ない」ということ。

そして、そのヒットが出ない理由こそが、「心理的安全性がない」ことにあると、その放送の中で語られていました。

現在の立浪監督は、とにかく「見逃し三振」を嫌っているようで、それを選手たちにも口酸っぱく伝えているとのこと。

もちろん、その指導にも意味が無いわけではないのですが、それによって「打席で選手が委縮している」マイナスが生じているとの指摘がラジオで流れていたのです。

「見逃し三振だけは絶対だめ」→「指示に従わないとトレードの恐れあり」→「絶対に見逃し三振だけはしないと固くなる」→「ヒットが中々出ない」→「点が取れない」→「勝てない」→「さらに強い指示が飛ぶ」→「益々選手が委縮してヒットが出なくなる」→「点が取れない」→「勝てない」…

ちなみに、これらはあくまでそのパーソナリティの方の考えであり、それらがすべて正しいかは分かりません。

しかし、その方は生粋のドラゴンズファンであり、長年チームの様子を見てきたからこそ先のように感じるのだということをお話されていました。

私は、この話を聞きながら大いにうなずきました。

ドラゴンズのことにはまだまだ知らないことだらけですが、「心理的安全性」がチームのパフォーマンスに大きく影響することだけは間違いのないと感じたからです。

「アンダーアチーバー」と「オーバーアチーバー」という言葉があります。

「本来持っている力すら満足に出せていない人」がアンダーアチーバー。

「ポテンシャル以上の力が発揮している人」がオーバーアチーバー。

当然、オーバーアチーバーがたくさん出ているチームは「いいチーム」ですし、アンダーアチーバーが多数いるのは「チームの状態は悪い」といえるでしょう。

そして、オーバーアチーバーが多数出てくるチームの共通項こそが「心理的安全性」であることは、多くの識者が指摘しています。

先日、授業参観に来られたあるお家の方が、私に次のように話してくださいました。

「うちの子が『クラスがとっても落ち着いている』って言ってました。安心して学校に送れていますし、何より毎日とっても楽しそうです。」

前号で伝えた百人一首の例よろしく、現在クラスでは様々なオーバーアチーバーが誕生してきています。

新聞やポスターを自主的に作成し始める子達が、どんどん増えてきました。

漢字のテストの成績はここに来て、うなぎ上り状態が続いています。

音読や暗唱の上達具合もそうですし、各教科の準備の仕方もそうです。

色んな所でブレークスルーが起きてきているのは、先ほどのお家の方がおっしゃっていた「安心」というキーワードと密接につながっています。

心理的安全性とは、ゴールキーパーやパラシュートのようなものです。

サッカーのフォワードは、守りがいるからこそ攻められます。

最後の砦を含めた守備陣の安心感が強ければ強いほど、思い切った攻撃が可能になることは疑いようがありません。

スカイダイビングも、パラシュートが絶対に開くという信頼があるから飛び降りられます。

開くか開かないか不明なパラシュートでは、絶対に飛べません。

恐怖で体がこわばって、それこそ一歩も動けないでしょう。

いざという時に作用するセーフティネットの存在こそが、意欲や挑戦心を掻き立てるといふ側面は確かに存在します。

逆に言うと安心感ではなく、恐怖心や不安が強いときは、体がこわばって思うようなプレーができなかったりチャレンジができなかったりということが起きてくることもまた自然なことだといえます。

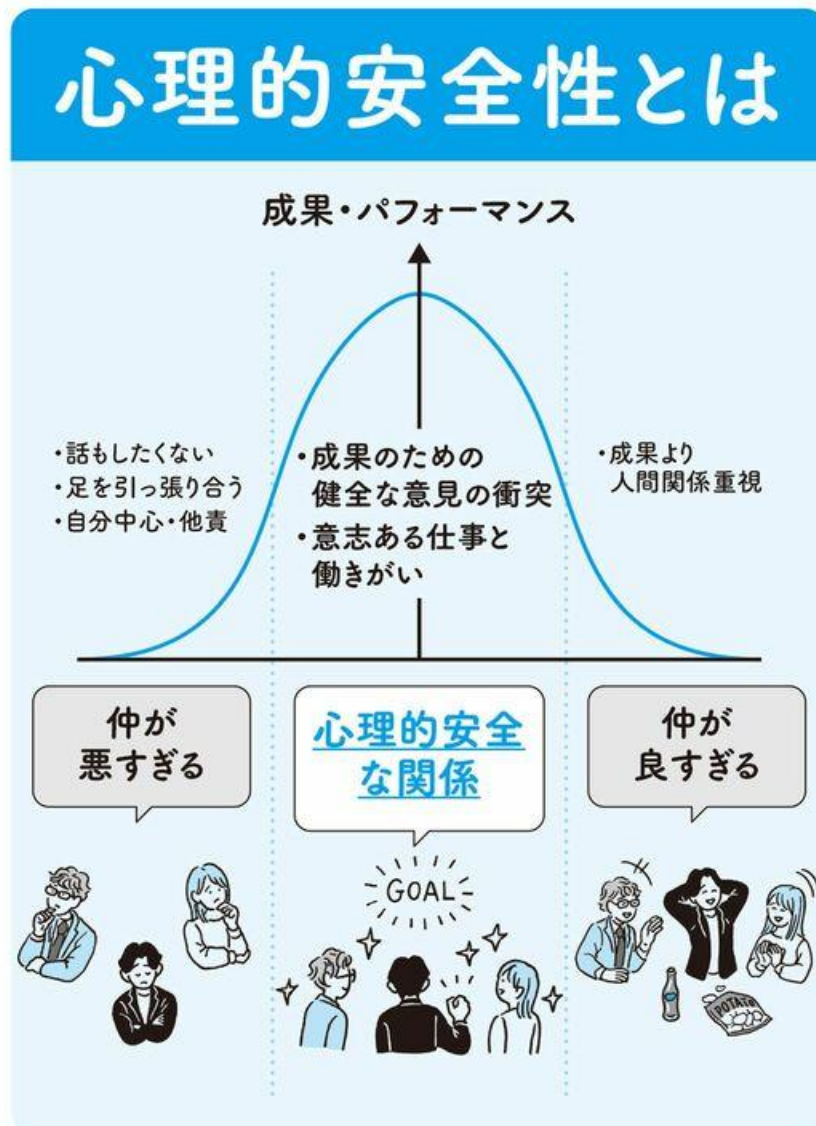
秩序や安全が担保されているからこそ、子どもたちが伸び伸びとした学校生活を送れるという側面は間違いなく存在するということです。

そのゴールキーパーやパラシュートのような存在になれるかどうかというのも、教師にとっての大切な役割です。

先日のラジオ放送やお家の方とのお話から、こんなことを考えました。

よりよいプレーを生んでいくための心理的安全性、これからもこだわってみんなと一緒に作り上げていきたいと思えます。

図表1



☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

